

「文の京」総合戦略の改定について

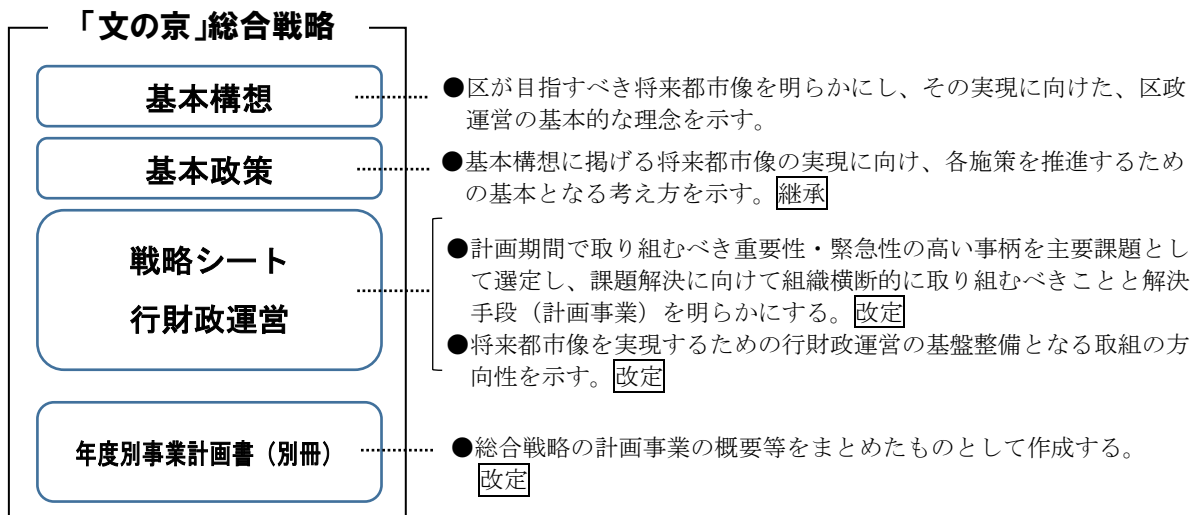
令和2年3月に策定した現行の「文の京」総合戦略（以下「総合戦略」という。）について、本年度が最終年度となることから、総合戦略を改定する。

1 概要

（1）基本的な考え方

- 基本構想に掲げる「将来都市像」の実現に向け、各施策を推進するための基本的な考え方である「基本政策」を継承する。
- 将来人口推計や財政状況、本区を取り巻く社会状況の変化等を改めて分析し、計画期間における重要性・緊急性の高い「主要課題」や、行財政運営の基盤整備となる取組の方向性を示した「行財政運営」について、必要な改定を行うこととする。

（2）計画の体系



（3）計画期間

令和6年4月から令和10年3月まで

(4) 今後のスケジュール

令和5年	6月	議会報告（計画の改定、概要）
	9月	議会報告（骨子及び主要課題） 区民参画
	11月	議会報告（素案）
	12月	パブリックコメント
令和6年	2月	議会報告（最終案）
	3月	改定

2 将来人口推計

別紙のとおり

将来人口推計について

住民基本台帳人口を用いて直近の人口動態を踏まえるとともに、合計特殊出生率の回復を見込んだ、区独自の将来人口推計を行った。

1 将来人口推計（区独自推計）の方法

本区の現状及び今後の施策展開等を勘案し、出生・死亡・移動について、以下の条件や仮定値に基づき、「コーホート要因法^{※1}」による推計を行う。

【基準人口や仮定値の概要】

基準人口	住民基本台帳人口（令和5年（2023年）1月1日現在）
将来生残率^{※2}	厚生労働省における、市区町村別生命表（平成27年（2015年））による本区の男女・5歳階級別の生残率が、国立社会保障・人口問題研究所の日本の将来推計人口（平成29年（2017年）推計）における中位ケースの将来生残率仮定値に基づき推移すると仮定。
純移動率^{※3}	コロナ禍前（平成26年（2014年）から31年（2019年）まで）の人口動態に基づき算出された純移動率が5年ごとに縮小し、令和20年（2038年）以降0になると仮定。
合計特殊出生率^{※4}	令和12年（2030年）に過去20年間の最高値である1.25まで回復すると仮定。
出生性比^{※5}	本区の平成29年（2017年）から令和3年（2021年）までの男女別出生数実績に基づく出生性比を使用（107.77で一定）。

※1 コーホート要因法

男女・年齢別のある年の人口を基準として、出生・死亡・移動に関する将来の仮定値を当てはめて将来人口を推計する手法。

※2 将来生存率

ある年齢x歳の人が5年後の（x+5歳）になるまでに生き残る確率のこと。

※3 純移動率

ある地域人口に対する他地域間との転入超過数の割合。

※4 合計特殊出生率

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

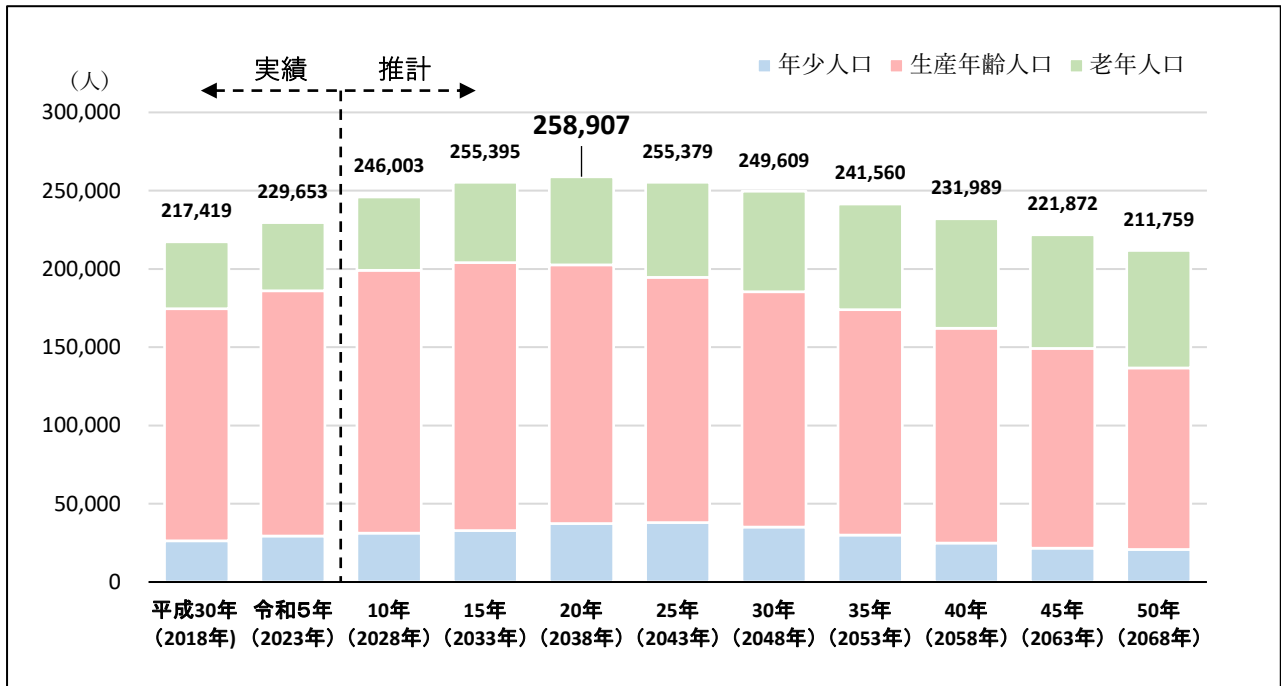
※5 出生性比

出生子のうち、女子100人に対する男子の割合。

2 将来人口推計（区独自推計）の結果

本区の人口は、今後、約15年間増加を続け、令和20年（2038年）には258,907人となり、その後は、緩やかな減少に転じると予想される。

年齢3区分別人口をみると、生産年齢人口は令和15年（2033年）、年少人口は令和25年（2043年）をピークに以降は減少傾向で推移する一方、老年人口は、引き続き増加傾向となると見込まれる。

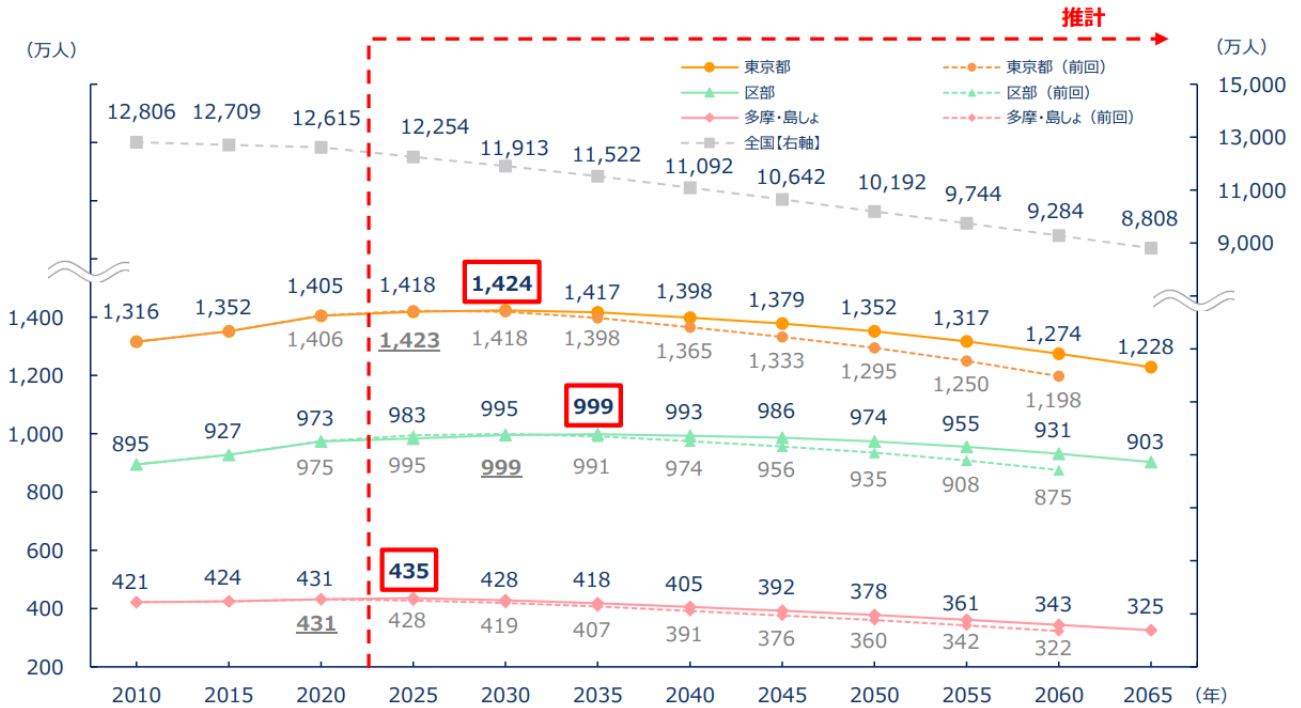


		実績		推計								
		平成30年 (2018年)	令和5年 (2023年)	10年 (2028年)	15年 (2033年)	20年 (2038年)	25年 (2043年)	30年 (2048年)	35年 (2053年)	40年 (2058年)	45年 (2063年)	50年 (2068年)
実績 (人)	総数	217,419	229,653	246,003	255,395	258,907	255,379	249,609	241,560	231,989	221,872	211,759
	老年人口	42,830	43,638	46,931	51,448	56,310	60,843	64,245	67,544	69,811	72,598	74,995
	生産年齢人口	148,270	156,645	167,939	171,043	165,231	156,589	150,270	143,941	137,290	127,663	115,974
	年少人口	26,319	29,370	31,133	32,904	37,366	37,947	35,094	30,075	24,888	21,611	20,790
比率 (%)	老年人口	19.7	19.0	19.1	20.1	21.7	23.8	25.7	28.0	30.1	32.7	35.4
	生産年齢人口	68.2	68.2	68.3	67.0	63.8	61.3	60.2	59.6	59.2	57.5	54.8
	年少人口	12.1	12.8	12.7	12.9	14.4	14.9	14.1	12.5	10.7	9.7	9.8
増減率 (%)	総数	—	5.6	7.1	3.8	1.4	△ 1.4	△ 2.3	△ 3.2	△ 4.0	△ 4.4	△ 4.6
	老年人口	—	1.9	7.5	9.6	9.5	8.1	5.6	5.1	3.4	4.0	3.3
	生産年齢人口	—	5.6	7.2	1.8	△ 3.4	△ 5.2	△ 4.0	△ 4.2	△ 4.6	△ 7.0	△ 9.2
	年少人口	—	11.6	6.0	5.7	13.6	1.6	△ 7.5	△ 14.3	△ 17.2	△ 13.2	△ 3.8

3 参考

(1) 東京都「未来の東京」戦略付属資料 東京都の将来人口

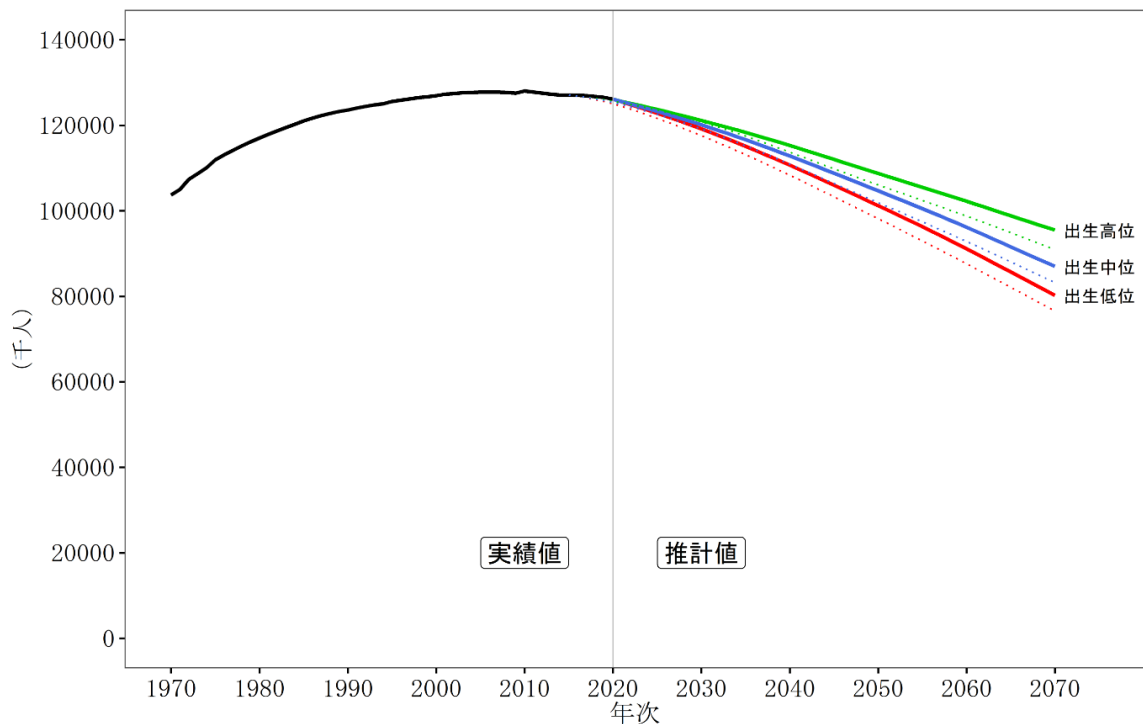
(令和5年(2023)年1月)



(2) 国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口

(令和5年(2023)年推計)

総人口の推移 — 出生中位・高位・低位 (死亡中位) 推計



実線は今回推計、破線は前回推計。